



# Weekly Report

RI 会長テーマ Engage Rotary Change Lives

クラブ会長テーマ 奉仕を通じて 友情を

## 第2162回例会

### 追悼例会

**日 時** : 平成25年10月23日

**会 場** : 例会場

**司 会** : SAA

**開会点鐘**

**斉 唱** : ロータリーソング

「それこそロータリー」

### お客様の紹介

板倉 小百合 様 (故板倉醇幸会員 令夫人)

### 会長報告

●2014-15年度 補助金管理セミナーの開催

日時 11月18日(月)

場所 ハイアットリージェンシー東京

出席者 岡本正伸会長エレクト・遠藤常臣副幹事

### 幹事報告

●次週のガバナー公式訪問の出席確認書の提出、まだの方は早くご提出をお願いします。準備とお食事の時間がいつもと変わりますので、配布された案内を再度ご確認ください。

●今後の予定

11月 4日(月・休)

「くにたち秋の市民まつり」に参加

11月 6日(水) 例会 クラブフォーラム

11月12日(火) 多摩中グループIM

於：立川グランドホテル



11月13日(水) 振替休会

11月17日(日) クリーン多摩川

11月20日(水) 振替休会

11月27日(水) 例会 卓話

12月 4日(水) 年次総会

12月11日(水) 例会 卓話

12月18日(水) 12/19年忘れ家族例会に振替

### 委員長報告

●岡田社会奉仕副委員長

26日開催予定の環境フェスタくにたちは、台風の影響で中止となりました。11/4の「くにたち秋の市民まつり」の参加ご協力をお願いいたします。

●伊東多摩中テニス大会実行委員長

10/14体育の日、好天に恵まれて第19回の大会が行われました。参加13名、これまでで一番少ない人数でした。当クラブの成績は、三田会員夫人幸子様が敢闘賞、関会員と伊東はベストフレンドシップ賞を獲得いたしました。

### 出席報告

秋山出席委員

10月23日 在籍47名中 出席41名

前々回(10月9日)の出席率95.6%

### 閉会点鐘

村上会長



R.I. 第2750地区 多摩中グループ  
東京国立ロータリークラブ

会 長:村上隆秀 幹 事:山崎義晴

例 会 日 : 毎週水曜日 例 会 場 : 谷保天満宮社務所2階 東京都国立市谷保5209 TEL042-576-5123  
事 務 所 : 東京都国立市中1-9-36 KKビル4F TEL: 042-575-0770 FAX: 042-572-8666  
E-mail : kunitachi-rc@sage.ocn.ne.jp  
U R L : http://kunitachi-rc.com/  
会 報 委 員 : 関 重 寿・遠 藤 直 孝・齊 藤 博 人・富 田 聡

# 故板倉醇幸会員追悼式

## ■追悼式次第

### 1. 黙祷

### 1. 追悼の言葉

村上隆秀 会長

岡本貞雄 会員

### 1. 献花

### 1. ご遺族挨拶

### 1. お食事

## ■開式

司会：山崎義晴幹事

ただ今より、故板倉醇幸会員の追悼会を開式いたします。故板倉醇幸会員は、8月15日にご逝去されました。ご家族の悲しみは如何ばかりかと、お察し申し上げます。また、クラブにとっても、かけがえのない人材を失いました

故板倉醇幸会員の、クラブでの業績、そして人となりは、後で語られますので省略いたしますが、はじめに故板倉醇幸会員の在りし日をしのび、ご冥福をお祈りして、黙祷をささげます。

## ■追悼の言葉

故板倉醇幸会員の遺影を前に、クラブを代表して謹んで追悼の言葉を述べさせていただきます。

板倉先生は、本年8月15日、小淵沢の別荘で、農作業中に倒れ、奥様の懸命な救護にもかかわらず急死されました。その日は、朝、軽い山登りを奥様とご一緒にしましたが、途中、疲れた様子であったので、奥様が帰りましようと言って戻り、別荘に帰った後の農作業中での出来事であったそうです。

この日は、終戦記念日でした。板倉先生は、先の大戦を記憶されている当クラブでも数少ない会員であることから、何度か、例会で戦争の思い出を卓話して頂いておりましたから、何かの奇縁を感じずにはおれませんでした。

板倉先生は、皆さんご承知の通り、私の直前の会長であり、2012年～2013年の第44代の会長です。板倉先生は、現役バリバリで、板倉矯正歯科医院を経営されており、そのほかにも青色申告会の副会長、歯科医師会の役員等をされており、会長の時期は、大変多忙な毎日をご過ごされていたように伺っております。当クラブの例会日は水曜日ですが、先生の歯科医院の休院日は木曜日となっていたようですので、開院日の水曜日の例会や前日の例会準備、しばしば夜間に開催される地区のクラブ協議会や、当クラブの炉辺会合等、休



ご遺族挨拶をされる 板倉小百合夫人

む暇もなかったのではないかと推察しております。

今般の追悼例会の準備の為、事務局の間島さんに、週報や例会・会報等の記事・写真を見せて頂きました。すべての写真の先生は、笑顔で、いかにもその一つ一つの企画を大切に思い、楽しんでおられる様子が伺え、改めて、先生がいかにもこの一年間、会長職に専心されていたかを感じました。

先生は、昭和12年生まれで、当クラブでは8番目の高齢ですが、日頃の言動を拝見しておりますと、とても76歳に見えない若々しさを感じておりました。特に、冬でも半袖であることもあり、幹事の小澤谷さんからワイシャツを着るようにと注意されていたことが、昨日のように、ほほえましい情景として思い出されます。

板倉先生は、平成元年6月21日に入会され、今年で25年のロータリー歴となります。矯正歯科医院の経営等で多忙を極めていたこともあり、幹事は経験されておりませんが、親睦・社会奉仕は勿論、プログラム・クラブ会報等の様々な委員会を担当されました。20年を越える長いロータリー歴の方で会長を経験されていない方は、ほとんどいないことから、岡本貞雄会員や秋廣道郎会員が会長就任を強く要請されたと伺っております。先生は、相当躊躇されたようですが、決断された後は、会長職に邁進されました。最終例会の退任の言葉の中で、会員の皆様への感謝とともに、「妻小百合、有り難う」という言葉が深く印象に残っております。

本日、故板倉会員の奥様のご出席を頂き、追悼例会を開催するにあたり、故板倉醇幸会員のクラブにおける業績と、ありし日を偲び、心から惜別する次第です。

板倉先生、どうか安らかに眠りください。心からご冥福をお祈り申しあげ、追悼の言葉といたします。

合掌

平成25年10月23日

東京国立ロータリークラブ  
会長 村上 隆秀

## ■ご遺族ご挨拶

本日は例会の貴重な日にお時間をおつくりいただき、主人のために、このような追悼式をご用意いただきまして、誠にありがとうございます。

主人は、東京国立ロータリークラブに平成元年6月21日に入会しました。約四半世紀、皆さまとの出会いは、この上ない喜びでした。そして、主人にとりまして前会長にご推挙いただきまして、生前中は大変お世話になりました。只今、村上市長と友人代表岡本貞雄さんのお別れの言葉のとおり、本人はしっかり会長職を一年やりとげて、本望だったと思います。

祥月命日から、主人がいないことを、少しずつ受け入れられるようになってきました。また、今日こうして皆さまにお会いできましたことで、主人のことをゆっくり考えられるお時間となりました。主人のようにはいきませんが、私でできる皆様への恩返しをこれからしていきたいと思っておりますので、今後ともご指導、ご鞭撻よろしくお願い申し上げます。今日は、皆さまに心暖まる追悼式にお声掛けいただきまして、本人も天国から、皆さまに笑いかけていると存じます。これからもお力添えをどうぞよろしくお願いいたします。

板倉小百合

### 追悼のことは

故板倉醇幸さんに、ロータリークラブの友人を代表して謹んで追悼の言葉を申し上げます。

今年の日本列島は記録的な猛暑が続きました。その最中の八月十五日、板倉さんは山梨の別荘において心不全により七十六歳の生涯を閉じられました。

私たちが訃報に接したのはその翌日のことでしたが、七日の例会ではあんなにお元気だったのに……と、あまりにも突然なことに直ちには信じられませんでした。もう例会に出席しても、あの板倉さんの笑顔にお目にかかれなと思うと、誠に悲嘆の限りであります。

板倉さんは、東京国立ロータリークラブ二〇一三〜一四年度、第四十四代会長としてクラブの発展に尽力されました。見識を備え、巧みな話術によって、和やかなクラブ運営を構築されました。また、歯科医師会、青色申告会等でも要職にありながら、階出席で会長職を全うされ、ご自身も満足されていたことと拝察いたします。

二〇〇九〜一〇年度、私は指名委員長として、板倉さんを二〇一三〜一四年度の会長に指名いたしました。それまでの板倉さんは時間的に制約がある歯科医院を経営されていたために、幹事を経験していませんでした。多くの会員がロータリーに熱中する中で、板倉さんはマイペースでした。しかし、例会場では頻りにメモを取り、会報委員長など、与えられた職務は確実に実行しておりました。その頃からは親睦会にも頻りに顔を出すようになり、会員間の信頼も増してきたことで、歴代会長会からの推薦もあって私が説得に当たりました。そして、多くの会員の熱心な勧めもあって会長職を受けていただきました。その後、副会長、会長エレクトとして経験を積まれ、先述のとおりの実績を残されました。

板倉さんは昭和十二年七月七日に誕生しました。この日は、中国北京郊外の盧溝橋で日本と中国の軍隊が衝突し、日中戦争のきっかけになった日でもあります。その後、日本は太平洋戦争へと突入し、敗戦、その後の混乱と、板倉さんの少年期は暗い激動の時代でした。

かつて当クラブには、板倉さんと同年の昭和十二年生まれが、私を含めて十名在籍し「花の十二年組」といって還暦の時には一同で天満宮に参拝しました。現在は私と吉野会員の二人だけになってしまいました。その年代の我慢強い性格は、戦中戦後を耐え忍んだ少年期に培われたものだと信じております。

板倉さんと私は、ロータリーをとおして友情を深めてきました。そのきっかけは「山登り同好会」でした。三田賢司さんをリーダーに、近くは御岳山、大山、大菩薩。一泊では那須岳、

谷川岳などへの登山を楽しみました。板倉さんは学生時代に山岳部に入部していたので健脚は当然のこと、樹木や植物にも詳しく、ある時にはキノコを採集して食べたこともありました。一番の思い出は、当クラブが三十周年の年度に、地区大会をグアムで開催した時のことです。クラブからは夫人を含めて三十名が出席し、地区大会の出席もそこそこに、ゴルフ三昧のグールのほか、買い物やオプショナルツアーなど、私たちは常夏の島で三泊四日の旅行を堪能しました。

その中で、板倉さんと私たち数名は、あるホテルのマリンスポーツと、乗馬、テニス場などを備えたテーマパークで、正に南国の楽園でした。私たちは熱帯魚のいるプールで泳いだりして、多くの新婚カップルに交じってマリンスポーツを楽しみました。

その途中、板倉さんの姿が急に消えてしまいました。私たちは懸命に場内を探しましたが見当たりません。ところがスキューバダイビングを体験するプールサイドに、板倉さんのゴム草履が脱ぎ捨てられていました。そのプールは十五メートルほどの深さがあり、横の階段を降りるとプールの側面がガラス張りになっていて中が見えるようになっていました。そのプールの底に板倉さんが酸素ボンベを背負ってインストラクターと潜っていました。約四十分のツアーは危険が伴うために誓約書を書かされた後でお聞きしましたが、その時、板倉さんは六十二歳。その好奇心の旺盛さと、少年のような無邪気さには感じました。私がその後抱き続いている板倉さんのイメージは、この時に焼き付けられたものです。このように、楽しかった思い出の中には未だに板倉さんは元気に微笑んでいます。

一昨年度の最終例会で小百合夫人を紹介しました。その後のクラブの催しでも、ご夫婦の仲睦まじい姿を拝見し、私たちは「板倉家の幸せの絶頂」を感じたものです。その幸せの絶頂での急な旅立ちは、痛惜の極みではありますが、同い年で老後の不安を抱えている者としては、羨望の心境も存在いたします。その一方、最愛の人を失った小百合夫人の悲痛な悲しみをお察しし、心からご同情申し上げます。これからはクラブで生まれながらご縁を大切に、私たちも出来る限りのお力添えをいたします。ので、一日も早く立ち直られますようお祈りいたします。尽きぬ思いに時が過ぎてしまいます。在りし日の板倉さんを偲び、心からご冥福をお祈り申し上げます。追悼の言葉といたします。

平成二十五年十月二十三日

合掌

東京国立ロータリークラブ

岡本 貞雄